組合員・地域の皆様へ

JA葬祭通信

地域とともに、ゆたかな暮らしのお手伝い

2014.8月発行　第７号

■発行／福島県JA葬祭事業連絡協議会
■編集／㈱JAライフクリエイト福島 生活事業部 催事課
〒963-0725　郡山市田村町金屋字下夕川原76番1
TEL024(942)5078
■ホームページ　http://www.jalcf.jp/index.shtml
■お客様相談窓口
（ご意見・ご質問）☎024(942)5078

新規斎場がオープンしました

JA伊達みらい
「みらい斎場華蓮」
（平成26年4月28日オープン）
伊達市 保原町

㈱ジェイエイサービスすかがわ岩瀬
「あいりすホール須賀川」
（平成26年4月8日オープン）
須賀川市 大町

JA会津いいで総合サービス㈱
「まごころ斎苑やまと」
（平成26年5月1日オープン）
喜多方市 山都町

JAふたば指定管理（川内村）
「かわうち葬祭センターふるさと」
（平成26年3月5日オープン）
双葉郡 川内村 上川内

県下統一事前相談会を開催しました。

平成26年7月5日（土）　場所:県内の各JA葬祭会館にて

次回の統一開催は 平成26年11月16日（日）です。

当日は

- ご葬儀のお見積り
- ご葬儀に関するご相談
- JA安心準備ノートの作成
- 来場者の皆様に粗品を進呈

などを行っておりますので、
お気軽にご来場ください。

各種イベント、研修会を実施しました

5月31日・6月1日

JAあぶくま石川　あぶくま斎場石川

お盆提灯特別ご予約会

2日間で105名の方が来場されました。提灯などのご注文を多くいただきました。

6月1日

JAたむら　まごころ

新盆・法事総合展示予約会

198名の方が来場されました。新盆商品、法事のご相談等を承りました。

6月1日

JAそうま　やすらぎ会館原町

JAそうま総合展示会

当日は200名ほどが来場されました。友の会入会や葬儀事前相談がありました。

6月8日

㈱ジェイエイ新ふくしまライフ　JAホールかわまた

ふれあい感謝祭

民謡と津軽三味線コンサートや健康チェックも開催され、約300名の方が来場されました。

6月19日

JA会津みなみ　やすらぎ斎苑会津みなみ

JA会津みなみ人形・ぬいぐるみ供養祭

約50名が参列されました。田島保育園児が思い出の人形たちに別れを告げました。

6月29日

JA会津いいで総合サービス㈱

まごころ斎苑　友の会の集い

山形県南陽市さくらんぼ狩りと上杉神社日帰りの旅です。

JA職員のご紹介

JA葬祭で働く方にお話しをお聞きしました。

雅楽川（うたがわ）　哲（てつ）さん(18歳)　西会津町出身

入社3ヶ月の雅楽川さん。高校を卒業してJA会津いいで総合サービス㈱に入社し、19名いる営業施行課に配属されました。現在は「祭壇の設営」・「花環の設営」・「搬送業務」など主に準備関係の仕事をしています。

この仕事に就いたきっかけは、中学生の時に亡くなった祖父の葬儀の担当者の方を見て「いい仕事だな」と思ったそうです。その時祖父の葬儀を担当してくれたのがこの会社であり、担当者は今回の取材にも同席してくれた先輩の赤城さんでありました。地域のために役立ちたいという思いもこの仕事を選んだ大きな理由です。明るくて人と接する仕事が好きな雅楽川さんが来てからは、職場の雰囲気も良くなったと先輩の赤城さんが語ってくれました。

「実際に仕事を始めてからは、思っていたよりもずっと人のためになる仕事だと感じています。」

趣味は音楽鑑賞や靴を買うことです。休日は、釣りに出掛けたり社会人のソフトボールチームに入って活動しています。

「まだ社会人としても葬儀屋としても1年生ですが、優しく教えてくださる先輩方に習い、先輩達のような営業マンになっていきたいです。」

「原点の思いを大切に、故人を失った家族の気持ちに立って、まごころを忘れずにいきたい。」と強く語ってくれました。

取材に同席していただきました。
左から：雅楽川さん、上司の中川部長、先輩の赤城さん

ご葬儀の出棺時のクラクション

一般的には、火葬場まで行けない方に対するお別れの合図としてクラクションが鳴らされています。もともとの由来は昔の葬列、いわゆる「野辺送り」にあるようです。葬列の先頭で僧侶がお経をあげながら鳴らす鐘や太鼓の代わりだとか、亡くなられた方が、極楽浄土に通じる三途の川へ出航して行く旅立ちの合図とも言われております。

その他にも諸説ありまして、皇室のご葬儀で雅楽の楽器（報鼓）を鳴らしたことに由来しているともいわれ、今も皇室ではその伝統があります。

JA斎場の近隣にお住いの皆様におかれましては、その趣旨・風習をご理解いただきますようお願いいたします。

●グリーフケアについて●

●グリーフ(悲嘆)とは

大切な人を亡くした後に現れる、心身の不調や変化のこと。

悲しみの感情だけでなく、

●**思慕**(ふとした時に故人を思い出してしまう反応)、

●**疎外感**(死別によってまわりの人の態度が変わったように感じる)、

●**怒りや罪責感**(自分だけが生き残ったことに対するやましさ、故人の死に対し自分に責任があると感じてしまう)、

●**うつ的不調**(不安感、無気力、虚無感、目標の喪失、外出・人に会うなど外界との接触が煩わしくなって引きこもりがちになる。これらの症状は死別後半年や1年経って表れてくることがある)

などがあり、時にはこれらの現況を改善しようと意識的に頑張ろうとし、これまでの生活習慣になんとか戻ろうと試みるが思うように成果が出ず、二次的なストレスとなって睡眠障害・食欲低下など身体の違和感を覚えることがあります。

死別の悲嘆は抑制したり、逃げたり、避けたりするのではなく、表出することによって、悲しむことによって癒されていきます。悲嘆の表出を避けたり、あるいは妨げたりしてうまく表出ができなかったりすると、体調を崩したり、精神的な疾患を引き起こすこともあります。

周囲の者が悲嘆の癒しをするなど、何かができるわけではありません。悲嘆に寄り添い、話に耳を傾けながら心の負担を軽くするなどの支援(サポート)をすること、それをグリーフケア(悲嘆ケア)と呼びます。

そしてグリーフケアを行ったからといってすぐに、はっきりとした効果が期待できるものではありません。グリーフから脱却するのが目的ではなく、遺族の「グリーフを大切なものと理解する気持ち」です。グリーフはそれ自身は人間としてあたりまえのことであり、病気ではありません。しかし病的症状も起こしかねません。特に不眠、食欲不振、長期の引きこもりには配慮したいものです。

●グリーフケアとは

【親戚・知人の役割】

グリーフケアは本来は家族や地域社会が行うべき行為。実質的な運営は、故人に縁のある周囲の人たちが行います。遺族を気遣い、雑用から遺族を守り、遺族が悲しみを営む時間を用意していたのです。

葬祭業者がグリーフケアを行うことよりも、遺族に近い人(親族、友人、近隣の方)が行うことのほうがより一層のケアになるということを覚えておいてください。

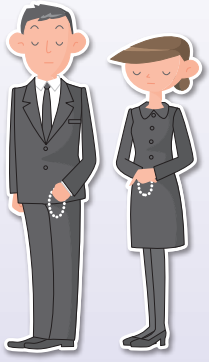
死別によって強い悲嘆に陥っている人へのケア(グリーフケア)やサポートの仕方にマニュアルはありません。

❶忘れろ、がんばれ、
しっかりしろという言葉は避ける
❷話を聴く
❸一人にしない
❹悲しみを避けない
❺自分の悲しみの体験を分かち合う
❻事務的煩雑さの負担をかけない
❼笑いや休息は不謹慎ではない
❽健康管理に気をつける

悲嘆の先取り…家族が医師より早い段階で死の告知を受けていた場合、まだ入院中で存命でも死の悲嘆が家族を襲うこともあります。

悲嘆の代行…施設や、医療機関に長期入院されていた場合は、家族よりも看病をしていた付添いの人や看護師など家族以外の人に悲嘆現象が生じる場合もあります。

近年、葬儀後の悲しみにある遺族が仏壇をとおして死者と対話することはその悲しみを癒していくのに有効である、として仏壇をグリーフワークの場として見直す動きもあります。



詳しくは
㈱JAライフクリエイト福島
HPをご覧ください。

http://www.jalcf.jp/index.shtml

JAライフクリエイト福島 検索 クリック

JA葬祭